

トロント大学
ロチェスター大学
DASER-II
出張報告

千葉大学附属図書館

阿蘇品 治夫

北海道大学附属図書館

鈴木 雅子 小坂 麻衣子

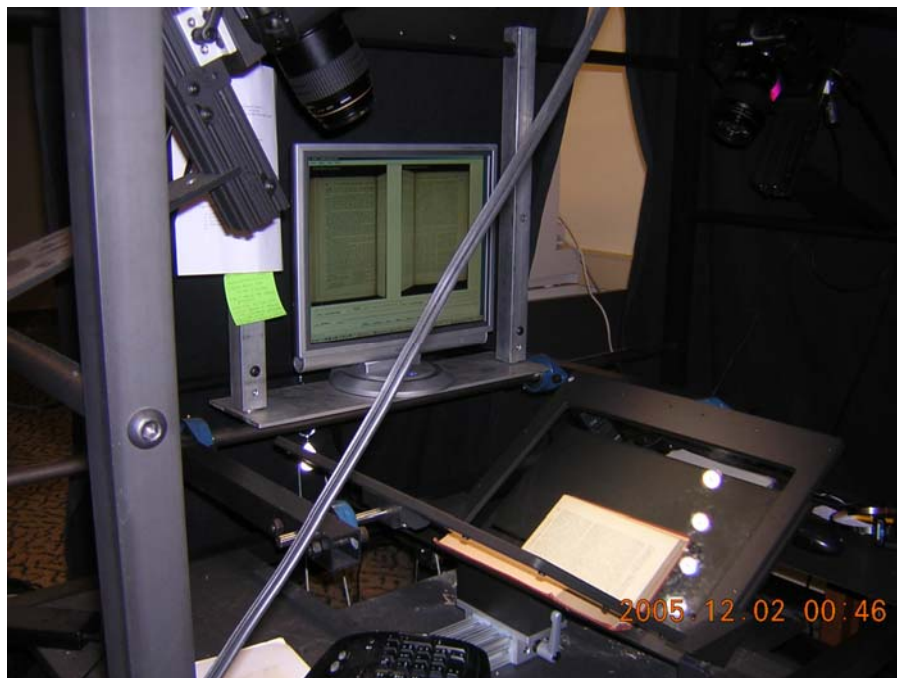
旅程

11/30 朝 千歳出発 夕方 成田出国 夜 Toronto着
12/1 AM&PM Toronto Univ. 訪問 夜 Rochester着
12/2 AM&PM Rochester Univ. 訪問 夜 College Park着
12/3-4 DASER-II 会議
12/5 朝出発 12/6午後帰国 夜 千歳着



Toronto大学にあるscanning center

Mr. Gave Juszel の話



- OCA*のデジタル化拠点 (CDLとここ)
- 現在の電子化対象は 1923年以前のpublic domain資料が主
- 電子化とオンライン公開
<http://www.archive.org/>
 - 500頁/h、30冊/day
 - US\$0.10/1頁

「public domainのフルテキストをフリーでアクセスできるようにデジタル化することは保存・利用の両面で意義がある。そして山ほど残っている」

*OCA(Open Content Alliance): YahooとInternet Archiveが主導するデジタルアーカイブプロジェクト。

Toronto大学概要

Mr. Warren Holderの話



- カナダで最大規模の大学
30学部 学生約6万人
- オタワ州の中心的存在
電子ジャーナル契約等
- SFXを選択した理由は、20
大学をフォローする必要性、
ナレッジベースが優秀、ASP
は心配だった から。
「インストラクターはお金を出せば雇える」

T-SpaceとOCAのデジタル化とは関係なし

T-Space担当者との懇談

Ms. Rea Devakos の話



- 説明には「Open Access」という言葉は使わない。
(教員に聞いてもらえないから)
「Visibility」を使う。「Library spaceの利用」「保存」を使うことも。
- Self-Archiveは難しい
→ 学生をトレーニング
指導教員への説明・代理投稿
- Scirusとの連携
Advanced Search → Abstractや
関連キーワードの表示

「リポジトリに入っているコンテンツの種類は、グリーン論文は少ない。学内出版物のアーカイブが多い。あとはビデオが少し」

UR-Research担当者との懇談

Ms. Susan Gibbons,
Ms. Suzanne Bell の話



- 研究者への説明は図書館員がフォーカスして口コミ。これが一番である
- OA・IRという言葉は使わず、Archive、Materialsを使う
- Self-Archiveは難しい
→ 秘書をトレーニング
秘書が代理投稿
- Web Citation Index

・ 著者原稿がない！ → 研究者のアイデアで、preprintと研究ビデオを掲載しているケースがある。 <http://hdl.handle.net/1802/2181>

「リポジトリに入っているコンテンツの種類は、グリーン論文は少ない。世界唯一の楽譜等uniqueで重要な資料を入れている」

Rochester大システム担当者との懇談

Mr. Nathan Sarr



- ・ DSpaceのシステム担当者は彼1人。
- ・ ロチェスター大学が開発したDSpaceのカウンター機能やResearcher's Toolも彼が作成。
- ・ Web Citation Index はまだテスト版。見かけはWOSと同じでした。Articleのみ載せている。提供はハーベストで。
(Ms. Gibbons談)

Ms. Judith S. Briden,
Mr. David L. Lindahl の話



- SubjectによるDB教育クラスあり
- 各Articleにとぶようにする等ENCompassをかなりカスタマイズ
- SFXのナレッジベースも使用。
- リンクリゾルバを入れてDB等アクセス数100以下→30000近くにup
- リンクリゾルバやメタサーチは学生向け
(Googleを使っちゃうので)

DASER-II 概要

Digital Archives for Science & Engineering Resources (DASER) 2 Summit

2-4 December 2005

College Park, MD

<http://www.daser.org/>



- Sponsored by the American Society for Information Science & Technology (ASIST)
- 参加者: 約50名
図書館員、学会・出版関係者、研究者、学生etc.
- 発表: 15件
- 自己紹介
- 発表2～3件毎に Breakout Session

DASER-II 発表(1)

- Institute of Physics -

- **Steve Moss** (IOP) *"Open Access: Perspective from an STM society publisher"*
- IOP's Open Access Initiatives
 - This Month's Papers (出版後30日間無料)
→ 10タイトルのImpact Factorsが20%以上増加
 - IOP Select (重要論文を編集者が選び、無料提供)
 - Open Access Journalsは3タイトル
New Journal of Physics (1998～)・・・Article charge: \$900、
投稿・出版論文数増加中、Reject率70%以上、ダウンロード数
増加中。経費の赤字解消(単年分)は2007年の見込。
- 選択的なOAと完全なOAは矛盾しない
- 既存Core Journalsの成功を制限せず、むしろ強化した

DASER-II 発表(2)

- ProQuest -

- **Jeff Riedel** (ProQuest) *"Alternative Models of Scholarly Communication"*
- Digital Commons・・・ProQuest社のIR製品(ASP Model) 。Univ California、Univ Connecticutなど。
- IR Challenges
 - コンテンツ収集・・・最大の問題。研究者はIRの利益を示される必要あり。
 - 現在の解決策・・・Regular Email Reports、Branded Personal Researcher Pages、Citation Harvesting
- Digital Commonsの雑誌出版機能 (7 of 32 sitesで実行中)
- OAとIRの類似点: 情報アクセスの経費節減、相違点: OAはpeer-reviewed journals、IRはgray literatureが中心
- IRとSelf-Archiveは発展途上であり、OA Journalsを補う

DASER-II 発表(3)

- BioMed Central -

- **Marie Martens** (BioMed Central) *"Open Repository, Another Way to Open Access"*
- Open Repository・・・BMCのDSpaceを使用した IRホスティングサービス。Univ Connecticut (pilot repository)など。
 - Complete set up within 3 months
 - Customization, maintenance, technical support
- DSpaceに独自の機能を追加
e.g. Quick Submission Option・・・PubMed IDまたはPublisher's DOIからメタデータを流用入力可能。
- Open RepositoryとDigital Commonsの特徴比較表
http://www.openrepository.com/features/OR_vs_DC_Feature_Comparison.pdf

DASER-II 発表(4)

- University of Pennsylvania -

- **Mary Steiner** (Univ Pennsylvania Library) *"The Toddler Years for ScholarlyCommons@Penn"*
- PlatformはDigital Commonsを採用
- 図書館とSchool of Engineering and Applied Scienceの共同でPilot projectを開始
 - Feature their "best" work
 - Subject liaison support
- 2005年2月より正式公開(他部局のコンテンツも含む)
- コンテンツ収集・・・研究者Webページ、DB、e-mailで依頼
- Marketing・・・文書、広報記事、デモ、パンフレット
- 将来・・・リポジトリの拡大、EJホスティング、サービスの長期運用

DASER-II 発表(5)

- University of Virginia -

- **Leslie Johnston** (Univ Virginia Library) *"Repository Development at the University of Virginia Library"*
- PlatformはFedora*を採用
 - *Fedora・・・Cornell UnivとUniv Virginiaが共同開発するデジタルオブジェクト管理用のOpen Source Tool。 <http://www.fedora.info/>
- Phase 1 (summer 2003): prototype
 - electronic texts from the library's special collections
 - arts, architecture, and cultural documentation images
- Phase 2 (fall 2003): repository運用開始(α版) → 現在β版。正式版は2006年秋リリース予定。
 - コンテンツはsubject librariansが選定、Digital Library Production Serviceにより電子化
 - ImageViewer、Digital Object Collector Tool

DASER-IIにて(補足)

- Stevan Harnad氏 (Canada Research Chair, Universite of Quebec/Montreal)からのコメント:
 - コンテンツの絶対数よりも、その機関で(例えば年間に)生産される全論文に対する収載論文数の比率が重要。
 - 日本の研究者は、他国の研究者より、強制的な登録Policyがあれば従うと回答した比率が高い、との調査結果あり。
 - 「Policyがあり、かつLibraryのHelpがあれば、研究者はみんなIRに論文を登録するようになるはずだ。簡単なこと！」

Presentation finished

